

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
そ1. その人らしい暮らしの支援	11
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	9
	2
合計	30

事業所番号	4671400150
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひまわり苑
訪問調査日	平成21年5月11日
評価確定日	平成21年7月31日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4671400150
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひまわり苑
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1番240 (電話) 0994 - 32 - 6166

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年5月11日	評価確定日	平成21年7月31日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24000・27000円	その他の経費(月額)	9000円	
敷金	有(——円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(——円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 89.2 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	垂水中央病院 相良整形外科 川畑歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

垂水中心部にあって錦江湾沿いの桜島が一望できる地に当ホームと小規模多機能ホームがある。ホームで野菜を栽培・収穫した食材を利用者と一緒に調理し、同じテーブルで食することで話題が広がり楽しい食卓となっている。飲料水はすべて温泉水を利用している。職員は常勤が多く安心して職務に励む環境ができている。母体病院による医療面での支援体制も充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、指摘のあった職員の段階に応じた研修計画立案は詳細に計画作成し、人材育成に力を注いでいる。介護計画については利用者も取り入れ介護計画立案を考慮している。重度化や終末期の在り方については利用者、家族の意向を聞いて記録に残している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が各自、自己評価したものを持ち寄り協議し、内容把握に努め、ケア向上につながるよう取り組んでいる。自己評価、外部評価をサービスの質の向上の機会ととらえ改善課題を共有、改善に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的開催されている。前回とりあげた内容の経過報告、また、現在とくんでいる内容の報告など継続的に話し合っている。参加メンバーから色々な意見や質問をもらってサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居時苦情相談窓口のあることを説明している。面会時にも意見や相談しやすい関係作りに努めている。家族会を年2回もっている。運営推進会議や家族会で出された意見は運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域のスーパーに買い物に行ったり、散歩中気軽に挨拶を交わしている。市の行事に参加したり中学校、高校の職場体験学習も受け入れている。地区の公民館で小規模多機能、グループホームの説明会をしたり、認知症サポーターの研修会で認知症の講話をしたりして地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に職員全員で現状に合った理念を作り上げている。地域密着サービスの役割も追加し、地域住民との交流を隣にできた小規模多機能とともに地域密着型サービスを深めていこうと望んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールや事務所に掲示し、理念が実践されるように日々の中で話し合いや確認がなされている。家族や地域の方々にも見学時や運営推進会議、家族会において理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のスーパーに買い物に行ったり、散歩中、気軽に挨拶を交わしている。市の行事に参加したり中学校・高校の職場体験学習も受け入れている。デイケア利用者との交流もある。地区の公民館で小規模多機能・ホームの説明会をもったり、市の認知症サポーターの研修会などで認知症について講話したり、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、各自が自己評価をしたものを持ち寄り、協議し内容把握に努め、ケア向上につながるよう取り組んでいる。自己評価、外部評価をサービスの質の向上の機会ととらえ、改善課題を職員は共有できている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回とりあげた内容の経過報告、また、現在取り組んでいる内容の報告など継続的に話し合いを持っている。参加メンバーから色々な意見や質問をもらってサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口に出向いたり、また、市の職員も運営推進会議以外にもホームを訪れている。市の保健士とも話す機会があり、色々情報やアドバイスをもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは面会時に詳細に報告し、また、ホーム便りに近況や写真をそえて郵送している。金銭管理は出納帳のコピーに領収書を添付して家族の確認をもらっている。職員の異動についても報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、苦情相談窓口のあることを説明している。面会時にも相談しやすい関係づくりに努めている。家族会を年2回もっている。出された意見は運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない異動時には、少人数ずつ入れ替えたり利用者が混乱しないよう取り組む。普段からユニット間の行き来をしてなじみの関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修会があり、当ホーム職員も事例発表をしている。外部研修は段階に応じた年間研修計画を作成し、復命研修の形を取り、報告は毎月のケア会議の中で行い共有できている。資格取得にも力を注ぎ、自己啓発の必要性を説き、スキルアップを図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区と垂水市のグループホーム連絡協議会に加入している。同市内のグループホームと交流会を行い、職員同士の意見交換なども行っている。市内の地域密着型サービス連絡協議会を立ち上げ定期的研修会や交流会を実施していく計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には事前訪問や面談を行なっている。必ずホームを見学したり、体験利用する機会を作り納得してから利用を開始している。入居後も安心して暮らせるように、家族に面会を多くしてもらえようお願いしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員はパッチワークなどの共同作業時にねぎらいの言葉や感謝の声掛けがあり、喜怒哀楽をともにしている。職員は利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で表情や言動に細心の注意を払い、本人の思いや意向の把握に努め、職員同士共有し、個々の力を発揮できるよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いや生活暦を把握し、家族・本人の要望を聞いている。職員は各々に作成したアセスメントやモニタリングなどで意見交換を行い、プランを共有しながら本人本意の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヵ月毎の見直しをしている。状態変化に応じ、その都度現状に即した見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院による医療面での支援体制(往診)が充実している。外出や通院も柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期受診以外の専門科受診は家族に協力をもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、面会時に家族の意向を聞いて記録されている。指針に基づいての説明はできてない。利用者、家族が望む場合には重度化・終末期においてホームでケアできるように看護師の配置や協力医療機関からの支援体制を整えている。		グループホームの力量なども勘案された指針作成の見直しが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に、言葉使いなどについても会議などで話しあっている。個人記録は事務所内で管理している。また、守秘義務については職員採用時の誓約書もある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れは決められているが起床、就寝時間など一人ひとりの思いやペースを大切にしている。職員の業務のペースに利用者を合わせることはないよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえから片付けまで利用者とともにやっている。ホームで栽培・収穫した食材を調理することもあり、同じテーブルを囲んで話題が広がり楽しい食卓になっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっており、希望や状況にあわせて時間帯や回数を変更している。入浴拒否に対しても無理強いせずに自然と入れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は本人に何ができるかを見極め適切な支援をしている。利用者のこれまでの経験や習慣を活かした役割や楽しみごと(バーベキュー・焼き芋大会)の場面を作って気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩やドライブ、買い物を楽しんでいる。また、季節ごとの催しものや物産館への買い物など外出の機会を多くもてるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアについて努めている。プライバシーに配慮しながらセンサーやライトを利用し見守りを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練(昼間・夜間想定)をしている。誘導方法・避難器具設備・災害バック点検・使用方法について訓練指導が行なわれている。消防署は2分で到着する距離にある。地域住民の方々には運営推進会議などを利用して呼びかけている。災害時の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士の助言を受けて献立を作成している。1日の食事・水分摂取量を記録し、栄養バランスに配慮している。飲料水は温泉水を利用している。身体状況に合わせてトロミやお粥など取り入れている。体重測定は月1回実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木材を豊富に使った落ち着いたある広々とした清潔感のある造りになっている。中庭もあり、また、ウッドデッキからは菜園に植えられた野菜や花を見ることができる。リビングには手作りパッチワークカレンダーなどを飾って利用者の目を楽しませている。温度調節や換気をこまめにしている。冬場の湿度はぬれタオルで調節している。ゆったり居心地良く過ごせる共用空間ができています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口前に2居室専用の洗面所とトイレが確保されている。家族の写真やテレビ、仏壇、慣れ親しんだ小物類が持ち込まれそれぞれ個性ある居室つくりになっている。		